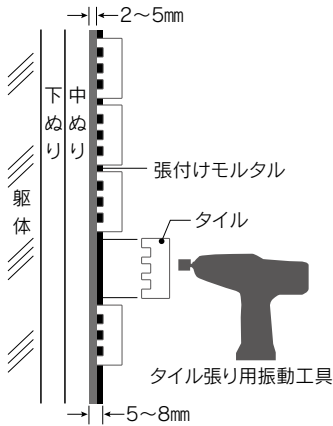
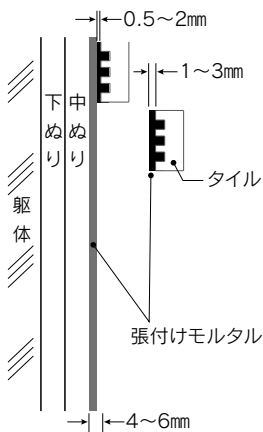


1. 密着張り



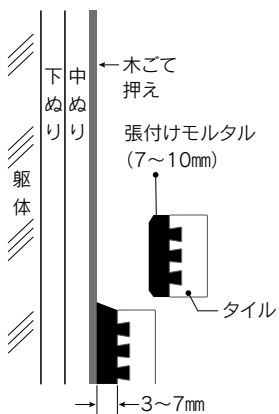
- 下地面に張付けモルタルを塗り付け、タイル張り用振動工具でタイルに振動を与え、埋め込むように張付けます。
- タイルは上から下に張り付けます。先に張ったタイルの位置ずれを起こさないよう、一段置きに数段張り付けた後に間のタイルを張ります。
- はみ出した張り付けモルタルを押さえて仕上げる一発仕上げは、深目地になったり、硬化したモルタルを動かし、接着強度の低下を生じるなどの問題があるため禁止します。

2. 改良圧着張り



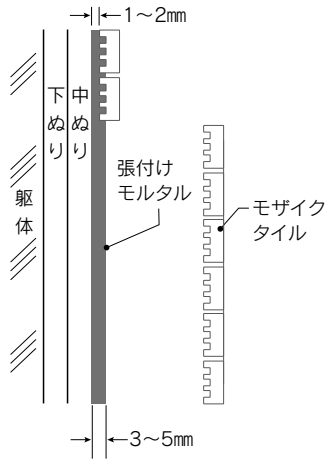
- 圧着張りの張付けモルタルがオープンタイムの影響を受けやすく接着不良につながる点を改良した工法です。
- 張付けモルタルを下地面に塗り、さらにタイル裏面全体にも張付けモルタルを塗り付けながら壁面に押し付けて張ります。
- 下地側に張付けモルタルを塗った直後にタイル張りをすると、タイルにズレが生じる場合がありますので、ある程度締まった後にタイルを貼り付けることが重要です。
- タイルの裏面に張付けモルタルを塗り付け、タイルを直ちに張り付ける作業手順とします。

3. 改良積上げ張り



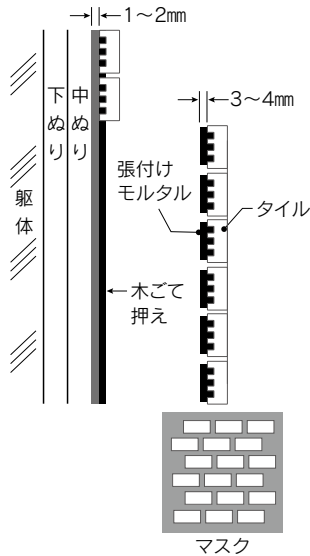
- 精度の良いモルタル下地に対して、タイル裏面に張付けモルタルを塗り、下段より積上げながら張ります。
- 下地の乾燥に応じて水湿しを行います。吸水調整剤を使用すると張付けタイルがずれるため使用しません。
- 空隙ができないようにタイル裏面全面に張付けモルタルをのせ、すばやく張り付けます。
- 空隙ができてしまったときは必ずモルタルを詰めます。ふり粉は白華の原因になるので使わない。
- 一日の張付け可能な高さは1.5m以下とします。ただし、三丁掛以上のタイルは高さ1m以内とします。

4. モザイクタイル張り



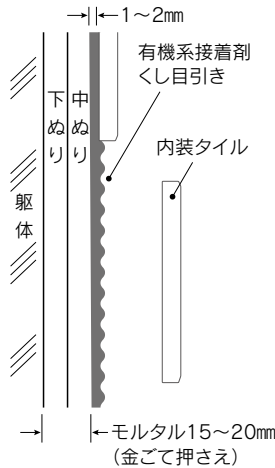
- 下地面に張付けモルタルを塗り付け、モザイクタイルユニットをたたき板などで入念にたたき押さえして張付けます。
- たたき押さえ後の目地調整は、タイルと張付けモルタルの接着を阻害します。目地調整はたたき押さえの前に行ってください。
- その後、モルタルの硬化の程度を見計らって表紙に水湿しをし、表紙を取り除き目地詰めを行います。
- 張付けモルタルの塗り厚不足は接着不良、剥離の原因となるので塗り厚は充分確保してください。
- オープンタイムの影響を受けやすく、塗り置き時間が長くなると、接着力が急激に低下するので注意が必要です。
- 下地精度がそのまま仕上がり面に影響するので、精度の良い下地づくりが必要です。(長さ2mに対して±1.5mm程度)

5. マスク張り



- モザイクタイル張りの短所であったオープンタイムの影響による接着力のバラつきを少なくし、良好な接着力を得るための工法です。
- 現在用いられているマスクは、(社)全国タイル検査協会が試験を行い充填性が最も良好であったものを提供しています。また、マスクの厚さは4mmとしています。
- マスク張りにおけるタイル浮きの最大原因は、タイルのたたき込み不足によるものです。表貼りの紙の一部がはみ出したモルタルで湿るまで、十分たたき押さえしてください。
- 下地精度がそのまま仕上がり面に影響するので、精度の良い下地づくりが必要です。(長さ2mに対して±1.5mm程度)

6. 接着剤張り



- 適用下地はモルタル、コンクリート、押出成形セメント板、ALCパネル、ボード類とします。
- 接着剤は開封後直ちに使用してください。
- 接着剤をくし目ごとを用いて必要な量および高さになるように塗布します。
- 接着剤の一回当たりの塗布面積は、接着剤の張り付け可能時間内に張り終える面積としてください。
- 下地表面が濡れている場合は、乾燥させた後、接着剤を塗布してください。
- サッシなどの部材を汚さないように事前に養生テープなどで養生してください。
- 吸水調整材やシーラーなどを塗布すると、本来の接着性を発現しない場合がありますのでご注意ください。
- 接着剤の厚みが厚くなると、接着剤の硬化が遅くなり剥離の原因となる危険性があります。

合	板	5.5mm以上
	ケミカル板	6mm以上
	石こうボード	9mm以上